

自分で自分の身を守る

— 5歳児を対象とした傷害予防教育の試み —

Safety Kids いずみ

このコーナーでは、消費者教育の実践事例を紹介します。

Safety Kids いずみ(以下、当団体)はAll you need is Love and Safetyをコンセプトに、「事故による子どもの傷害の予防と傷害の程度軽減」をめざして活動している非営利の団体です。元々は当団体の代表が1990年代にアメリカ・ニューヨーク州で子育てをした、その経験が活動のきっかけでした。アメリカの子どもたちは、例えば自転車用ヘルメットやライフジャケットといった製品によって事故による傷害から守られているのに、日本ではそういった整備が進まず、同じような事故が同じように繰り返し発生しています。統計を見ても、1歳から19歳までの子どもの死因第1位は長年いわゆる「不慮の事故」。この現状を変えたいという思いが、事故による子どもの傷害予防活動に取り組み始めた原動力になっています。

Risk Watch との出会い

2009年に当団体を設立、主に保護者向けの子どもの傷害予防講座を実施してきましたが、活動を進めるなかでアメリカの子ども向け傷害予防プログラム「Risk Watch」に出会いました。これは5歳児から中学生を対象としたプログラムで、学年別およびカテゴリ別に構成されています*1。これについて学ぶなかで、「日本の子どもたちにもこのRisk Watchのような傷害予防教育を実施したい」と考えるようになりました。

*1 長谷川祐子著『生き抜く力を育てるリスクウォッチ』

その後、子ども向け傷害予防教材「どっちがよいこ？」(図1)という紙芝居を作成し、主に神奈川県(以下、県)内の幼稚園や保育園に出向いて、これを活用した園児向けの講座を実施しました。子どもたちの反応は大変よく、先生方にも喜んでもらえたのですが、回を重ねるうちに、ふと「一過性のイベントに過ぎないのでは」という疑問が生まれてきました。本当に子どもたちの力になったのだろうか、子どもたちの行動変容につながったのだろうか、という疑問です。そこで県消費生活課に、特定の子どもたちを対象に、年間6回程度の連続講座を実施したいと提案しました。それが実り、連続講座を県の「モデル事業」として実施することになったのです。



図1 子どもの傷害予防紙芝居「どっちがよいこ？」

年間6回で「あんぜん」を学ぶ

このような経緯で、2015年7月から横須賀市にある私立幼稚園の年長児87人を対象に、年間6回の幼児向け傷害予防講座「じょうほくキッズ あんぜんカレッジ」を実施しました(表)。水遊びの季節の前にはライフジャケットの重要性を、外遊びの季節には自転車の安全を、乾燥する冬には火災・やけど予防を(写真)、というように季節を意識したカリキュラムにしています。そして、最終回は卒園前の2月に「ようちえ

2015年7月	1回目	みずあそび
9月	2回目	じてんしゃ
10月	3回目	かさいとやけど
11月	4回目	おちるところぶ
2016年1月	5回目	ちっそくとちゅうどく
2月	6回目	いろんな「あぶない」～ようちえんのなかの「あぶない!」をさがそう～

表 「じょうほくキッズ あんぜんカレッジ」カリキュラム

んのなかの『あぶない!』をさがそう」と題し、春になったら入園してくる小さなお友達がけがをしないよう、みんなで幼稚園の内外を点検する、という内容にしました。テキストはすべてオリジナルで、家に帰って塗り絵をしながら復習ができるよう、イラストはあえて線画にしています。



写真 火事で逃げるときは手の甲でドアの熱さをチェック

講座ではライフジャケットや自転車、ドアなどの「実物」を持ち込み、それらを見て触って、子どもたち自身に「なぜ危ないのか」「どうすればけがを防げるのか」を考えてもらいます。

毎回講座の終わりには「ふくしゅうテスト」を行うのですが、そのときの正答率はほぼ100%でした。しかし、1カ月後に同じテストをしてみると正答率は70～80%に下がってしまいます。やはり日常的に繰り返し伝えていくことが大切なのだということがよく分かりました。

また、夏休み前には子どもたちにライフジャケットの重要性を伝え、「海や川で遊ぶときはライフジャケットを着ようね」と呼びかけたのですが、実際に購入した保護者はごくわずかなど、保護者への働きかけが不足していたことを反省し、2016年度は保護者向け講座もカリキュラムに組み込みました。

子どもたちの成長も

年間を通して幼児向け傷害予防講座を実施してきて、改めて幼児を対象とした取り組みの難

しさ、特に効果測定の難しさを痛感しました。しかし、最終回の「ようちえんのなかの『あぶない!』をさがそう」では、子どもたちが真剣に「あぶない!」を探し、大人では気づかない低い位置の危険箇所を見つけ出すなど、子どもたちの成長を実感することができました。

また、保護者アンケートでは「自転車に乗るとき、子どもが自らヘルメットをかぶるようになった」「エアコンの室外機の上に乗ってはいけないと何度言っても聞かなかったのに、『ぼくの頭は重いから、のぞき込んだら下に落ちちゃうんだよ』と室外機の上に乗らなくなった」「小さい妹が何か口に入れていたら『ママ、大変!』と教えてくれるようになった」「学んだことを毎回弟に話していた」といったコメントが寄せられ、子どもたちの行動変容のようすをうかがい知ることができました。

活動の拡大をめざして

2016年度は横浜市泉区内の私立保育園の協力を得て、昨年同様の事業を実施中です。今回はライフジャケットを着用して実際にプールで仰向けに浮いてみるなど、より実践的な試みを行っています。保護者から「来年度も実施してほしい」という要望が寄せられています。マンパワーの問題もあり、なかなか活動を拡大することができません。ただ、テキストだけは「汎用版」(図2)を作成し、当団体のホームページ*2からダウンロードできるようにしました。

今後は、幼稚園・保育園の先生方に指導者になってもらえるよう養成講座を実施し、全国どこの幼稚園・保育園でも「自分で自分の身を守る」ことを目的とした実践的な教育が実施できるようにしたいと考えています。



図2 汎用版テキスト「こどものあんぜんカレッジ」

*2 <http://www.safetykids-izumi.jp/>